

第一百一號

フツルス、アーチ、アーチ、アーチ、アーチ、アーチ

横浜平沼図書委員会二〇二三



目次

テーマ「あつすぎる本」

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 『むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。』 913.6/あ | 2 |
| 『新クトゥルフ神話trpgルールブック』 | 3 |
| 『DAYS』 726/や | 4 |
| 『QuizKnockの博識クイズ デラックス』 031/< | 5 |
| 『ハイキュー！！』 726/ふ | 6~7 |
| 『武士道シックスティーン』 913.6/ほ | 8 |
| 『よだかの星』 | 9 |
| 『失恋の準備をお願いします』 | 10 |
| 『熱帯』 913.6/も | 10 |
| 『華氏451度』 | 11 |
| 『日本地図150の秘密 - 知れば知るほど面白い！』 | 12 |
| 『心が叫びたがってるんだ』 | 13 |
| 『世界の名言名句1001』 159/ア | 14 |
| 編集後記 | 15 |

編集：横浜平沼高校図書委員会うらざくら係

書影参照先：版元ドットコム <https://www.hanmoto.com/>

うらざくら 第101号

発行日：2023年10月23日

発行・印刷：神奈川県立横浜平沼高校 図書委員会

『むかしむかしあるところに、あるところに死体がありました』

著：青柳碧人



かぐや姫やシンデレラ、白雪姫はご存じですか？
今、知らない人はいないほどの有名な童話ですね。これらの中は全てハッピーエンドとまではいかなくとも、読んでいて感動する話が多いです。

では、この話の中に突然死体が現れたらどうなってしまうのでしょうか。もしそうなったら、王子、ヒロイン関係なく悪役へと成り下がってしまいます。

例として一つ、鶴の恩返しを紹介しましょう。あるところに貧しい暮らしをしている男がいました。仮に甚八と名付けておきましょう。甚八は雪の中、怪我をしている鶴に会います。心優しい甚八はその鶴の怪我を治してあげました。数日後、甚八の家にとても美しい女性が訪れます。名をつうと言いました。つうは甚八に頼み、家で働かせてもらいます。何をしているのか気になる甚八でしたが、つうとの約束を守り、裸を覗くことはありません。また数日経ち、つうはそれは立派な羽織を仕上げました。

つうはここで自分の身元と、この家に来た理由を明かします。それを聞いた甚八は、つうの言う通りその羽織を街に売りに行きました。あまりに高く売れたので、甚八はいつもなら買わない酒やつうのためのかんざしを買いました。

甚八の優しさにさらに心を打たれたつうはもう一着織り始めます。するとある日、甚八に金を貸している十兵衛という男がやって来ます。しつこく金を迫ってきたため、甚八は咄嗟に十兵衛を殺してしまいます。更に、金を儲けることの優越感を知った甚八は次第に酒に溺れ、つうに暴力を振るうようになります。

した。それに激怒したつうはある行動をおこします。

この話はまだ続きます。どの話もラストに衝撃を受ける本格的昔話ミスティー。ぜひ、読んでみてください。

『新クトゥルフ神話trpgルールブック』
著：サンディ・ピーターセン 他 ／ 訳：坂本 雅之 他

H.P. ラヴクラフトらによって創造されたクトゥルフ神話の世界を舞台にしたホラーTRPGのルールブックです。trpgとは、ゲームは進行役となるKPと探索者を演じる数人のPLで楽しみながら、物語をすすめていく遊びです。探索者の創造、ダイス・ロール、戦闘、魔術、クトゥルフ神話の神々とクリーチャーなどといった、物語の創造とロールプレイのため各種ルールが解説されており、クトゥルフ神話trpgを楽しむ上で必要になる知識がぎゅっと詰まっている一冊です。

”新”クトゥルフ神話とあるように、新しくない方のルールブックもこの世に存在します。

新しい方では、古いのにはなかった、新しいルールが多く追加されています。私が追加ルールの中で特に好きなのは、探索者を作る際に探索者のイデオロギー（信念）を決めるというルールです。探索者の解釈がとても深まり、よりゲームに没頭することができます！他にも色々増えてるので、読んでるだけでも楽しむことができます！！

全432ページの大ボリュームで綴られるルールを読み解き、この遊びを更に楽しもう！

勇敢にも未知のものに挑戦する探索者たちは、狂気や死が待ち構えるクトゥルフ神話の世界に足を踏み入れ、やがて宇宙の真実を目の当たりにすることになるだろう！

『DAYS』

著：安田剛士

”アツい”ストーリーといえば”スポ根”一択！
その中でも、アニメ化もされているサッカー漫画の「DAYS」は激アツだ。

主人公は聖蹟高校1年の柄本つくし。彼は運動神経が悪いのにもかかわらず、ひょんな事から同じ高校の風間陣に誘われサッカーチームに入部することになる。聖蹟高校はサッカーの名門校で練習も厳しい。その中でサッカー初心者のつくしは活躍できるのか…！？

語彙力の無いキャプテンや常にキレている先輩など個性豊かなキャラクターが多く登場する為、きっと推しが見つかるはず！

特に注目すべきキャラクターはサラサラ金髪ロン毛イケメンの風間陣！サッカーが上手く、面白くて頭も良い。入部後もつくしをサポートしてくれるような、優しい心の持ち主でもある。たまにシユールなこともするから要チェックだ。

序盤ではつくしの情けなさにイライラするかもしれないが、諦めずに奮闘している姿を見たら自然と応援したくなるはずだ。つくしの存在によってチームは大きく影響されていく。それはきっと、物語の中のキャラクターだけでなく、「DAYS」を読むあなたにも影響を与えるだろう。つくしの”熱い”魂が、あなたにも伝導しますように。

『QuizKnockの博識クイズデラックス』 著：QuizKnock

「ああ、この人頭いいな」「すごい話題の数持ってるな」などと思うような人はいますか。そんな人に共通する点はおそらく、教養があるということでしょう。

教養は一朝一夕に身につくものではないですが、少しでも教養のある自分に近づきたい人に、特におすすめの一冊を今回は紹介させていただきます。

改めまして、私が今回紹介させていただくアツい本は、『QuizKnockの博識クイズデラックス』です。物理的な厚さは2.5cmと若干厚めになっていますが、2~3択程度の選択問題が続く構成になっているため気軽に読めます。

執筆したグループであるQuizKnockは、公式サイトやYouTubeコンテンツを作る東大発のグループです。YouTubeチャンネルの登録者は200万人を超えていました。

そんなQuizKnockによって書かれた本書の内容は、一般教養にフォーカスされています。社会、歴史、世界、自然科学、芸術他262問を、初級、中級、上級にカテゴライズした上で収録しています。各テーマごとにクイズがまとめられているため、自分がどの分野に弱いのかを知ることができます。また、一問ごとに5~7行程度の簡単な解説があるため、はじめて知る単語の意味の理解や既に知っていた事柄の確認に役立ちます。

読むだけで一般教養を知ることができ、賢い理想の自分に一步近づける、最高にアツい一冊。是非みなさんに読んでいただきたいです。

『ハイキュー！！』

著：古館春一

今回私が紹介するのは「ハイキュー！！」です！

ハイキュー！！には様々な激アツポイントが多くあるので、それを紹介していきたいと思います！

ハイキュー！！は高校生たちがバレーで全国大会を目指すストーリーで、主に主人公が所属している烏野高校がメインで進んでいきます。

バレーを通して登場人物が成長していくスポーツ漫画です。しかし、普通のスポーツ漫画には無いような魅力が多くあります。

スポーツ漫画といえば臨場感溢れる試合が魅力的ですよね。ハイキュー!!はなんといってもそこが最高です！試合中の描写がとてもリアルで、まるで私達も生で見ているかのような感覚を味わうことができます。描写だけでなく、試合の展開も手に汗握るような、激アツ展開たっぷりのものを楽しむことができます！

ハイキュー!!では、バレーのルールの説明もストーリー中に入っているので、バレーを全く知らない！という人でも楽しみながら読むことができるのです！

また、スポーツ漫画といえば「青春」も見逃せませんね！部活に打ち込みまくって、時には衝突して…そして固くなっていく友情、まさに青春まっしぐら！を感じることができます。全国大会を目指して皆で練習を重ねていき、それが1つずつ成長として現れていく瞬間は本当に感動ものです。コートの中の人たちの奮闘だけでなく、コート外の応援席の想いや奮闘も最高に心に刺さります！スポーツだけでなく勉強も重要！学力テストではクスッと笑えるようなギャグシーンもあります！

笑いあり、涙あり、友情も青春も感動もありの「ハイキュー!!」をぜひ一度は読んでみてください！



『ハイキュー！！』

著：古館春一

皆さんの「あつい本」は何ですか？

私は「あつい」という言葉は、人それぞれの解釈ができると思っています。時代の流れによって生み出された数多くの「あつい」は辞書に載っていないことがほとんどだからです。なので今から紹介する作品に対する私の「あつい」と皆さんの「あつい」が同じなのかどうか、ぜひ考えながら読んでみてください。

まずは、この作品を読み始めたきっかけについて話そうと思います。私は中学では陸上部に所属していましたが高校では別の部活動に入部しました。高校から新しく始めた競技にはその競技を題材にした某人気作品がありました。それが私の「あつい本」です。では、これからその作品の紹介をしていこうと思います。

物語の主人公はお世辞にも体格に恵まれているとは言えない小柄な少年。その少年がある日偶然見かけた春高バレーのテレビ中継には少年と同じ低身長ながらも躍動する「小さな巨人」が映っていました。彼に心を奪われた少年は中学でバレー部に入りましたが環境に恵まれなかつたために、低身長という身体的不利を補えるほどの運動神経とバネを持っていながらも、それを発揮できずに最後の公式試合も強豪校に敗れ、彼の中学校でのバレー人生は幕を閉じました。そして春、かつて「小さな巨人」がいた烏野高校排球部は「落ちた強豪」「飛べない鳥」と言われていました。そんな烏野高校の排球部に入部した小柄な少年は晴れて迎えた入部初日、思いがけない人物と体育館で出会うことになります。中学最後の試合の相手、強豪校の天才セッターです。最初は反発し合っていた2人ですが、独りでは見ることのできない「頂の景色」を見るために、個性豊かな烏野高校の仲間たちと共に全国大会を目指します。もう気づいた方もいると思いますが私の「あつい作品」はハイキューです。

次になぜ「あつい」のか、その理由を話します。正直、私はこの漫画には脇役はないんじゃないのかと思っています。主に2人の主人公を中心に話は進みますが排球部の仲間、対戦高校、その一人一人に物語があり、抱えているものがあります。それを細かく描写しているのがこの漫画です。名言や名シーンなども多いハイキューですが、特に私が共感したのは「逃げる方が絶対後からしんどいって事は、もう知っている」です。どこか人並み外れていて「かっこいいけど経験はないから分からない」と思うものが多いですがこのセリフだけは現実的で共感できる人も多かったのではないかでしょうか。

目頭も胸も熱くなる、ハイキュー。ぜひ読んでみてください。

『武士道シックスティーン』

著：誉田哲也

漫画化、映画化もされたスポ根系小説「武士道シリーズ」の一作目。

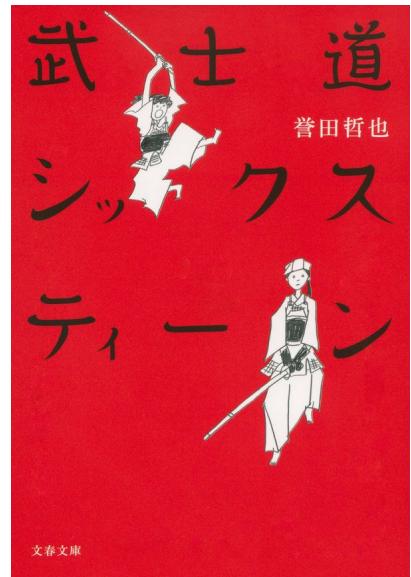
三歳から剣道を始め、全中準優勝の実績を持つ磯山香織と、日本舞踊から転身し、中学から剣道を始めた西荻早苗。

試合の勝ち負けに拘る香織は、準優勝という結果に納得がいかず、憂さ晴らしに地元の市民大会に出る。圧倒的な実力で、着々と勝利を収める香織だが、なぜか無名選手の早苗に負けてしまう。

屈辱の敗北を胸に刻み、早苗への闘志を燃やす香織は、推薦で早苗と同じ高校、東松学園高校女子部に進学することを決める。こうして二人は高校の剣道部で再会することになる。

しかし、どうやら早苗は試合で実力を出し切ることができずにいて、香織は本気の早苗と再戦しようと躍起になっていたが、同時に、早苗の剣道の戦い方に強い興味を持っていく。そして部は、いよいよ大会の予選の時期をむかえる…。

攻撃的で剣道一筋な香織と、温厚でお気楽不動心な早苗。性格も剣道スタイルも対照的な二人が、剣道をする意味、勝ち負けの重視、家族の関係など様々な問題に悩みながら成長していく過程と、徐々に深まる二人の絆を、交互に二人の視点から描く、胸アツ青春物語。剣道にくわしい人もそうでない人も、ぜひ読んでみてください。



『よだかの星』

著：宮沢賢治



よだかは太陽と星に頼むのです。「どうぞ私をあなたの所へ連れてって下さい。灼けて死んでもかまいません。」と。

よだかは顔はまだらで、くちばしは平たく耳まで裂けたようで、足はよぼよぼなひどく醜い姿をしている鳥です。そのことから他の鳥たちからは嫌われています。悪いことをしたわけではありません。ただその醜さ弱さを鳥たちは嫌うのです。

特に鷹はその名前からよだかを大変嫌っており、ある日名を変えろと迫ります。明後日の朝までに名を変えた。と口上して回らなければ殺してしまうぞと言って巣へ去っていきます。よだかが何をしたというのでしょうか。

夜になり、よだかは空へ飛び、虫達を口に入れてゆきます。そして、口の中で暴れる虫たちを考え、泣き始めます。虫たちが自分に殺される。そして自分は鷹に殺される。それがつらいのだと。

そうしてよだかは空を訪ねはじめます。

私がアツさを感じるポイントは、主に二つあります。一つはよだかの強さです。前述した通りよだかは醜く弱い鳥として描かれるのですが、ひとつだけ、飛ぶことだけは強く美しく描かれています。まるで空を二つに分けるようだと。暗く冷えた夜空をまっすぐ飛ぶよだか。垣間見える光る強さには心を揺さぶられます。

二つ目は太陽と星の眩しさにあります。後半からは空の太陽や星々に訪ねていくのですが、彼らはそう簡単に連れていってはくれません。どこからでも光は見えるのに届かない莊厳な姿は、よだかや他の生き物の誰も届かないような眩しさを感じさせます。

短く読みやすいですが、宮沢賢治の豊かさが存分に表れている一作です。ぜひ読んで、アツさを体験してみてください。

『失恋の準備をお願いします』

著：浅倉秋成

この小説は、『日の下町』という架空の町で起こる五つの別々の恋物語と、最後に起こるすべてを巻き込んだ大事件を描いたものです。魔法使いと嘘をついた女子高生、嘘発見器によって明かされる浮気の真実、尋常じゃなくモテる男子高校生、盗癖のある女の子に惹かれる男の子、会社をやめたいサラリーマンと、様々な年齢と癖のある人物が恋愛が絡む騒動に巻き込まれて行きます。この小説の一番の見どころは、その伏線回収能力にあります。五つの物語の中の出来事や登場人物、ほんの少しだけ出てきた会話、前の話で見たような言葉や話題があとの話にもちよこちよこ出てきて、だんだんと小さなつながりが見つかっていきます。それが最後の事件でつながるとき、すべての疑問や共通点が解消され、伏線の数と影響に驚かされます。些細な描写が大事だったり、少ししか出てきてない人が実は重要人物だったりと何度も予想を裏切られる小説です。様々な年代や性格の人々の少し常識外れな恋物語を楽しみ、最後には大きな驚きが待ってるこの話。気になったらぜひ手にとって読んでみてください。

『熱帯』

著：森見登美彦

913.6 モ

私が紹介させていただくのは、森見登美彦作「熱帯」です。

今まで誰も最後まで読んだことのない本、「熱帯」をめぐり、それを探す人々が次々と不可解な現象に巻き込まれていきます。京都、南海の孤島、砂漠地帯へと目まぐるしく移動していき、摩訶不思議な光景をたくさん目の当たりにした時、彼らは「熱帯」の謎を解けるのか。

500ページの本作、常に躍動的なストーリーが展開されるだけではなく、冬の京都のしんと静まりかえった情景や、終戦直後の満州の誰もいない街の中で進んでいく場面もあり、また違った緊張感を味わえます。

いきなり動き出す島や、話し出す達磨くん、我が道をゆく若者など、作者森見登美彦さんの世界観が全開で描かれており、なんじゃこりゃ！と思しながらも、引き込まれます。

秋の夜のお供にぜひ。

『華氏451度』

著：レイ・ブラッドベリ

華氏451度（°F）——およそ摂氏233度（°C）で、紙は発火し燃えるとされています。

この作品の舞台はアメリカ。科学が著しく発達し、感覚的な娯楽が目まぐるしく供給される一方で、本は人々を考え込ませ混乱を招く有害なものとして禁止されていました。

歴史・文学・哲学といったものが蓄積された書物たちは、捜査や密告によって焼き払われていきます。人々は単純労働と極彩色の音楽・映像鑑賞を繰り返し、気晴らしには危険行動や博打に狂い…と、記憶力や思考力は削ぎ落とされ愚民化していました。

この作品では「昇火士」（文字通り「ファイアマン」）と呼ばれる男たちが、禁制品となった本を焼く役割を担っています。主人公ガイ・モンターグもその一人でした。しかし、ある不思議な少女との出会いは、彼の人間関係そして心を変えていき…

現代の自分たちが思うような姿とはまた違った近未来、いわゆるレトロフューチャーの描写も見どころです。

1920年生まれの著者がこの作品を書き上げたのは1953年。2012年に新訳で出版されたため読みやすくなりましたが、その近未来観は新鮮に映ります。舞台は何年頃かはハッキリ触れられていませんが、説明によれば21世紀を優に超えているようです。

人々は考える力が薄れていったとはいえ農工業や商業・サービス業に就き、働くかずに暮らすという概念はなかなか見られません。当然インターネットも無く、日常的な製品はラジオ・テレビといった物が原型になっています。

また、作品内の機器には生物の名前が多く付けられています。耳に嵌る小型ラジオには「巻貝」、車（ジェットカー）には「カブト虫」…といった調子です。幻想的な文体と相まって、より不思議な感覚を味わえます。

ディストピアとして描かれた世界には、さながら現代を風刺されているような感触を覚えます。SF界の名著、ぜひ読んでみてください。

『日本地図150の秘密 - 知れば知るほど面白い！』

著：日本地理研究会

「地図帳」をじっくりとみた事があるだろうか。恐らく中学校あたりから社会科の授業でたまに使う、ほとんど見ないという人は多いのではないだろうか。私は地図帳を見るのが好きで、休み時間などの暇な時間などでよく見ていた。「この都市はこんな所にあるんだ」だと、「この川ってここ通ってるんだ」など色々知らなかつた事が発見できて面白い。この事を友人に話すと大体は「ちょっとよくわからないね」といったことを言われ、軽く悲しくなる。

そこで、地図の面白さを知ってもらい、「あつすぎる」になる事を感じてほしいので、「知れば知るほど面白い！ 日本地図150の秘密」という本を紹介しようと思う。

この本は、日本の地図に関する事のほか、ちょっとした豆知識のようなものが150個載っている。

「かつて日本には富士山より高い山があった」

「多摩地域は神奈川県だった事がある」

など、友人との雑談のネタになりそうなものから、

「『沼・池・影・尻』縁起が悪い土地は改名される」

「企業名由来の地名・地名由来の企業」

などの、地図・地形・地名に関する事も多くある。

折角なので、「都道府県の半数は県境が定まっていない」というのを一例として紹介しようと思う。

実は、都道府県の境界が全て定まっているのはたった9県しかないそうだ。その他の都道府県は市町村境や県境が定まっておらず、未定地の面積を合わせると岩手県一つ分、14,983平方キロメートルに達するという。

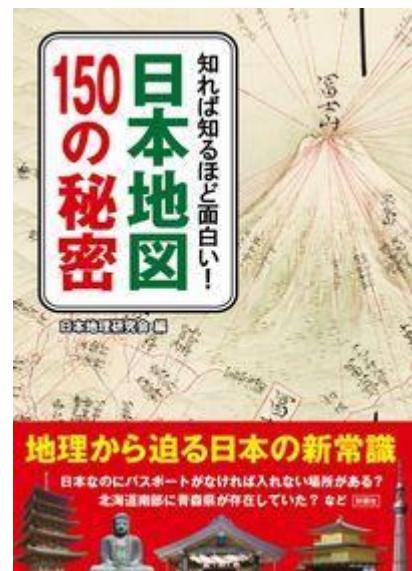
こう言った地図や地名の不思議な所を見つけて調べたり、自分が住んでいる地域に当てはまるものを探してみたりすることも面白いだろう。

そこで得られた知識を旅先だとかで友人に披露するのもいい事だと思う。

150の話一つ一つは長くても見開き1ページほどで、文字数もそこまで多くはないので、暇な時間にちょっと読むことも可能である。

この本を通じて、地名や地形、地図について興味を持って、面白さや不思議さを感じて「あつく」なってみてほしい。

そして、たまにでいいから地図帳も手に取って色々見てみて欲しい。



『心が叫びたがってるんだ』

著：超平和バスターズ

今回のテーマは「あつすぎる本」！！！（テーマを決めた時は気候的に暑かった）暑い、熱い、厚い…「あつい」にも色々な漢字や意味がありますが、自分は目頭が熱くなる本として「心が叫びたがってるんだ」を紹介します。

この本は主人公の本音を言わない男子高校生・坂上拓実と、同じクラスの喋れない呪いをかけられた少女・成瀬順がクラスメイト2人と地域ふれあい交流会の実行委員に任命され、さらにミュージカルの主役に抜擢されてしまうというストーリーです。

この本の面白いところは、喋れない成瀬は感情表現が豊富なのですが、坂上はあまり本音を出さない事です。あくまで自分の主觀によるものですが、これは作者がこういうキャラ付けをしたというよりも現代の青少年の特徴を表現したものだと思います。

さらに、成瀬や他の登場人物の心情の変化が多くわかりやすい所も面白く、読みやすいと思います。

他にも、この物語は恋愛要素が強めで、成瀬や坂上、また坂上の中学時代の元力ノなども登場して来て中々複雑な恋愛模様を描いています。

皆さんの中でも常に本音で話すという人は少ないと思いますが、そういう人にもそうでない人にも是非読んでみてほしいです。

『世界の名言名句1001』

編：ロバート・アープ

訳：大野 晶子・高橋 知子・寺尾 まち子

偉人たちの言葉には「重み」がある。

何故なら、その言葉に宿っているのは彼らの信念そのものであるから。そういう熱情を乗せた言葉は、私達の心を突き動かし、やがて人生の道を指示示す羅針盤となり得るのだ。

本書はその題の通り、人類の歴史に名を刻んできた人物たちの、1001もの「名言名句」が集約された大全のような一冊である。掲載される人物は、ナポレオンからスピルバーグまで、時代や分野を問わない品揃えとなっている。様々な言葉の中から、自分の心に響くものを探せるのだ。また、一つ一つの言葉に解説が載っており、込められた意味をより理解しやすいのも本書の魅力だろう。

本書の『アツい』ポイントは内容もさることながら、なんといってもその物理的な『厚さ』であろう。ページ数にして960ページ、背表紙の幅は約10cmにも及ぶ。内容の充実度を考えてみれば納得のサイズではあるものの、大きいものは大きい。図書館で借りた本書を持ち帰るのは至難の業だが、それでも、一度手にとってみる価値のある一冊であると私は思う。

酷暑の夏が過ぎ去り、やってきた読書の秋。

読者の多くはこの先、人生の岐路に立たされることがきっとあるだろう。そんな時にこそ本書を読んでみてほしい。人類が遺した言葉たちはきっと貴方の心を動かし、明日への希望となるはずだ。

編集後記

- ・うらざくらで好きな本の紹介ができたよかったです。
- ・外国文学について紹介するのは初めてだったので、様々な気づきがあり楽しかったです。
- ・普段やらない作業ができたよかったです。
- ・初めてのうらざくらでしたが、楽しかったです。
- ・テーマに少し工夫ができた、書いていて面白かったです。
- ・読書は年中激アツです。何卒よろしくお願ひします。
- ・好きな本の良さを改めて知るきっかけになりました。
- ・みなさんもぜひスポーツ漫画に沼りましょう！
- ・激アツ本読んで暖かくなってください。
- ・これを読んで楽しい時間を過ごしてくれれば嬉しいです。
- ・読書の良さが少しでも伝わったら嬉しいです！
- ・読書を楽しむきっかけになったら嬉しいです。
- ・皆さんもぜひ、アツい本を探してみてください！

編集長より

本誌『うらざくら』は、生徒の視点で好きな本、面白いと思った本を伝えたい委員の思いにより制作されています。そんな私達の声を読んでいただいて嬉しい限りです。新たな本との出会いや、以前に読んだ本の新しい魅力の発見はありましたか。本号で取り扱った本は、図書館カウンター横にて展示、貸出しています。ぜひお借りください！改めて、制作にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。
次号もどうぞよろしくお願ひします。